

平成25年度 東蒲原郡算数部 活動報告

部長 佐藤 英朗

1 研究主題 自分の考えをもち意欲的に表現する児童の育成

2 研究の概要

- 第1回 ; 活動計画立案
第2回 ; 講話「算数における表現力の育成」
講師 阿賀町学習指導センター指導主事 長谷川 秀夫 様
第3回 ; 研究主題にかかわる部員の実践事例交換会
第4回 ; 授業研究にかかわる指導案検討会，教育課程研究集会伝達講習
第5回 ; 授業研究会
・6年「ならべ方と組み合わせ方」 伊藤 晋市 教諭（上条小学校）
・指導者 阿賀町学習指導センター指導主事 長谷川 秀夫 様

3 研究の実際

(1) 第2回（5月8日）講話より

長谷川指導主事から，児童に自分の考えをもたせるためには，「児童が先生は自分の考えを常に肯定的に捉えてくれていると思っている」等の9つのポイントを大切にすることが必要であるという指導があった。また，意欲的に表現させるためには，「周囲から賛同を得た心地よい経験がある」「伝える相手の目を見て話すことができる」等の10のポイントがあることを示していただいた。講話を通して，児童自身への指導のみならず，その周囲の児童に対する指導の必要性や，表現に関わるスキル指導の重要性についての理解を深めることができた。

(2) 第5回（9月11日）授業研究会より

授業研究では，「教え，考えさせる授業」を目指した授業の提案があった。

第一課題として，「5種類の中から2つの飲み物を選びます。何通りの組み合わせがあるでしょうか。」を設定した。まず授業者が組み合わせ方を調べる既習の方法について再確認した後，児童にやりやすい方法を選ばせて自力解決させた。それを受けた第二課題として「5種類の中から，3つのカップケーキを選びます。何通りの組み合わせがあるでしょうか。」を設定した。第一課題での学習活動を参考に，組み合わせを調べる方法を児童に選択させ，自力解決した方法や結果を，ペア学習で発表し合わせた。

授業後の協議会では，以下の点がポイントとしてあげられた。

- ① 「教え，考えさせる授業」では，第一課題と第二課題の難易レベルや時間配分を十分検討する必要がある。
- ② 授業では，自力解決した結果をペア学習で説明し合う場面が設定された。ペア学習では，何のためにペア同士で発表させるのか，意図を明確にする必要がある。
- ③ 提示された課題の数値を○で囲む，話し方・聴き方等の学習スキルの徹底は，児童に考えをもたせ効果的な表現活動をさせる上で重要である。

4 成果と課題

参加した部員の一人一人が，部会の成果をそれぞれの所属校に持ち帰り，算数的表現力の育成にかかわる実践に活かしていったことが大きな成果である。今後は，学力向上を図るための視点として算数的表現力の育成を引き続いて取り上げ，各校及び部員の取組や成果の共有を，より一層図っていきたい。